

すぎな会の経営理念

1. 人間としての尊厳を重んじる姿勢を貫きます。
2. 利用者それぞれのライフステージにおけるケアを目指します。
3. 地域と協調し、地域の一員としての役割を果たすよう努めます。
4. 経営体としての安定性・積極性・信頼性を追及します。

本経営理念に基づき、職員・保護者・理事者が力をあわせて、すぎな会発展のため最善を尽くします。

経営理念作成に至る経緯

すぎな会設立の目的が、昭和 37 年（1962）設立に当たっての『募金趣意書』の中で次のように述べられています。「(前略) 親達が集まって、いくら小さくとも、貧しくとも、この人達の一生の楽園を築こうではないかということで、僅かなものを持ち寄って出来たのが、すぎな会です。(後略)」

利用者 23 名、職員 9 名の自由契約施設は、関係者の自助努力が基本となっており、決して財政的には楽ではなかったのですが、保護者の熱意と職員の働きと理事者の支えがその乏しさを補っていました。

昭和 38 年（1963）現在の厚木の地に生活の場を求め、施設を建設し移住しました。この土地買収に快く応じてくださった地主さん、そして地域の方々は温かくすぎな会を受け入れ、その後も、友好関係の中で今日まで支えていただいています。

昭和 42 年（1967）社会福祉法人の認可を受けるとともに、施設入所を望む社会の展望に應えるため、次々と増員し定員 178 名の大規模施設となりました。また、施設を出て地域で暮らすことを望む利用者のための生活ホーム・定員 5 名を、昭和 55 年（1980）、第二生活ホーム・定員 5 名を平成 9 年（1997）に創設しました。

平成 2 年（1990）から在宅の障害者を受け入れる施設利用推進事業を開始し、平成 7 年（1995）に第 5 期工事完成を期に、地域福祉の一環として定員 15 名の通所部門を創設しました。

このように、すぎな会は職員・保護者・理事者の支えのもと、地域の方々を始め多くの関係者の有形無形の援助でこの 35 年間を無事歩み続けてきました。

現在、利用者の平均年齢は 50 歳に近づき、高齢化・病弱・単身化に拍車がかかっています。一方、一般社会で独立して生活することを望んでいる者、援助があれば施設を出て生活できる者もいます。この人たちに対するそれぞれの適切な処遇・援助が必要となっています。また、すぎな会を取り巻く社会もその社会の方たちが、社会福祉に期待することも大きく変化してきています。今日的機能として自らを打ち立てるための理念・哲学をしっかりと持つことが求められています。

《すぎな会の経営理念》は創設当時の理想を尊重し、すぎな会創設以来 35 年間の歴史を踏まえるとともに、社会福祉の趣旨に則り、次代のすぎな会発展のため、その指標として策定されるものです。

1997年（平成9年）8月2日

社会福祉法人 すぎな会

(注) ライフステージ [Life stage] 人間の発達段階を幼少期・少年期・青年期・壮年期・老年期に別けて区分したもの。

(注) ケア [care] 援助・介護・保護